

「省エネ市民会議」					
会議年月日	24年6月8日	時間	13:30 ~ 16:00	場所	流山市生涯学習センター(3F)
出席者	葉山、春田(記)、高橋、三木、難波、伊藤、平手、新田、山田、松島、新美、田中 (ホワイトボードに向かって時計回り順に記載、敬称略)				
議 題					
6月度の省エネ市民会議を開催した。					
1、美田エコノートの解析(講師:葉山海太)					
・環境家計簿とは:流山市版で実演した。					
・美田エコノートの概要:22年度:179件、23年度:130件、アンケート付					
・美田エコノートの特徴:住居環境が同じ。紙ベース(IT格差なし)。エコライフ管理表を付属。					
・解析:団地平均、百分位、CO2排出割合、電気消費性向から見た節電量					
・分析:電気のCO2排出割合が41%であり前年度比の節電は37.kwh/月・世帯であった。					
* 気温と消費電力量の関係を、ミラー温度を使い電気消費性向係数(江戸川大学方式)を求めた。					
* 前年度比の節電量は、気温低下に伴う自然減(努力しなくても低減する量)を削除して求めた。					
2、NPO会員の環境家計簿から見たもの(講師:新田 修)					
・省エネを推進する会員(24名)の環境家計簿(23年/22年)を分析した。					
・住居環境にバラツキが多い(戸建て、集合、全電化、太陽光、太陽熱、ガス暖房、電気暖房…)					
・CO2排出割合、月別推移、家庭内(ガソリン除)、電気使用量の推移、住宅別kwhの推移…					
・課題:①全電化は悪か? ②暖房(灯油、ガス、電気)のベストミックスは?					
③省エネを推進する会員は自己本位で節電は本気だったか? ④ガソリンで全CO2排出量が振れる。					
3、ミラー分析について(講師:平手 彰)					
・環境家計簿は1年間の消費量を前年度比などと比較して分析する。					
・夏場と冬場ではエネルギーの使用量が異なる。					
・気温と消費量との関係を求めるときに、気温が冬場(マイナス温度)と夏場(30℃超)と大きく変化するので扱いにくい。					
・そこで、気温を下記式で換算して扱う事とした。この換算された温度をミラー温度(M℃)と定義した。					
ミラー温度(M℃) = T + (T - t) ここでT = 20℃、t = その時期の気温					
・例えば気温が-5℃の時のミラー温度(M℃)は下記となる。					
ミラー温度(M℃) = 20 + (20 - (-5)) = 20 + (20 + 5) = 45℃					
・課題:T = 20が最適値か?(20にした理由は快適に過ごせる温度とした/平手)					
次回予定	日時:7月6日(第一金曜日となります)13:30~16:30 場所:流山市生涯学習センター				

内容:太陽光発電について(ビックカメラ側から見た最近の傾向など)

以上